

地域と行政と文化団体で魅力ある拠点づくり－吹上美術館から松島分校美術館へ－

一般社団法人 クリエイターズラウンジ

活動の目的

倉敷市は東京オリンピックにむけて「観光」に力を入れている。当活動もその流れの一端にあるといえる。芸術・文化を扱う団体として、「芸術文化的な活動を通じて人々が繋がるための場をつくる」ことをテーマに、外国人観光客を中心に往來人口の増加を狙いながら、地域文化の発展に貢献したい。その中で私たちが運営する「松島分校美術館(仮)」は、倉敷市が取り組む「児島地域活性化事業」において、倉敷市と地域住民による各部会の連携により発足した「鷲羽山下津井まちづくり推進協議会」に一般社団法人として参入させていただく形で再スタートする。松島だけでなく下津井全体の魅力拠点づくりを目指します。

*吹上美術館は松島分校美術館に改名します。

活動の内容及び経過

地元の方々や倉敷市と連携しながら松島にある旧分校のリフォームと3月末に国内外で活躍するアーティストを招いたシンポジウムを開催した。

新たに配置された美術館専任スタッフを中心に、松島の美術館がどうあるべきかをしっかり考える必要があるという認識を関係者は共有している。同じ瀬戸内エリアには優れたアートサイトがすでに存在する中で私たちが地域文化振興の当事者として多くの方々を巻き込みながら進んでいくには、作品や展覧会などの「結果」を見せるのではなく、「過程」を共に楽しむという態度が必要だ。「今、ここで、私たちにしかできないこと」を探す旅がいよいよ本格スタートした。

本年度の具体的な活動としては、建物改修のための庭を含めたデザイン、松島散策やシンポジウム、アーティストへのインタビューなどを実施した。

活動の成果・効果

現在、児島の鷲羽山には年間30万人の観光客が訪れるが、そのすぐ裾野の下津井地域は年間3万人の観光客数しかない。美術館運営を中心とした地域の取り組みによってまずはその差を少しずつ埋めていきたい。また下津井は魚食文化・民謡など古くから続く独自の素晴らしい文化を持つ町である。美術館として下津井文化の魅力を発信し、地域活性に繋げたい。また、地方特有の閉鎖的なコミュニティ同士を結びつけることは準備の過程の中で、すでに成果として表れている。

今年度開催したシンポジウムでは松島での美術館運営はどうあるべきかが見えてきた。2018年度は「みる・つくる・あそぶ」をテーマに、「自分ゴトとして、だれでも参加



できる美術館」を目指し、観光客を呼び込むのではなくアクティブに美術館と関わっていただける「参加者」を募集する。

「みる」では、松島に眠る歴史や遺跡の調査研究を通じて島の過去みつめ、その記録を島の未来につなげる。「つくる」では、あえて未完のままに残された建物内装のデザイン・DIY、アーティストとの共同制作、さらに美術館の企画運営に関わっていただける方も随時募集する。「あそぶ」では、併設されたCAMPER'S INNにて宿泊やワークショップを体験することができる。これらの活動を通じてまずは島の魅力を見つけてそれを発信していきたい。

今後の課題と問題点

島にある旧松島分校は倉敷市によって修繕がなされた。また島民の方々も好意的である。しかし、児島・下津井エリアは室町時代から続く伝統を持つが、それを魅力に変換できていない。また部外者が入りにくい縄張り意識みたいな空気も根強い。島という少し離れた場所から下津井を見ることで、程よい距離がフィルターとなり、個性ある下津井地域の方々ともお付き合いできるのではなからうかと考えている。

- 代表者：片山康之 ●所在地：倉敷市下津井
- 設立年：2010年 ●メンバー数：3名